

4. テーマ3「来季に向けて」

岡本：私の方から、「来季に向けて」ということでお話をさせていただきます。まず監督というところは、今シーズン残りの試合がありますのでそれを見て決定出来ればと思っております。ただ選手というところでは、もう色々なところが動いておりますので、情報収集含めて随時やっているというのが現状です。来年チームを強化するという部分では選手補強も大事になってくると思うので、それと並行してやらせていただければと思っております。

中長期ビジョンというところでは、常に安定して上位をキープするようなチームを作るということで、安定したチームというのは守備が安定して、攻撃の部分で多様な攻撃が出来ることだと思っております。そういったところを含めた中で選手編成も決まってくると思いますので、そこをしっかりとやっていければと思っております。

鈴木：クラブの代表、社長としてのチームビジョンも含めて責任の取り方も含めて、話をさせていただきます。実は、今季はプロチームになって15年、J1に上がって9年目ですが、プロチームとして15年目で初めてクラブハウスも地元に来て、そのときにも話したのですが大事なものは設備も大事だけど、やっぱり選手・ヒューマンも大事だということを考えてクラブハウスを作ったんですが、今ここにきて、すごくやっぱりいい選手も集まりつつあります。大事なものは、じゃあそういうヒューマンの人材をどれだけ育成活用、活用って言い方はおかしいのですが、育成していくってことが一番私は大事だと思っております。そのために今クラブハウスに食堂を付けてるのですが、あまり皆さんにお話してないのですが、管理栄養士等含めて食材管理、食育含めてしっかりした体制を整えています。そういうことを継続することでいい選手が集まる、もう少し言うとユースの選手も含めて頑張ってくれるってことにつながるんだろう、と。そして成績については今年勝点53は諦めてません。来年も勝点53、55だったか、来シーズンも目標定めてやっています。そういうことを継続してやっていくってことが、最終的に常に上位を争えるチームになるんだろうと思っております。来シーズンに向けてはGMに対しては先ほど今一番最初に言ったのですが、来年使えるお金はこのぐら이다よということは既に示しています。その中で監督を誰にするのか選手を誰にするのか、代えるのかも含めて、できるだけ継続性を保っていくということで話はしています。結果は、来シーズンの体制については今どうのこうのまだ言えるところではないのですが、今の統一契約書上、8月からは交渉が出来るようになっていきますので、8月から交渉を既に始めているようにしています。

それと責任の取り方ということなのですが先ほど皆さんに一度お話させていただいたのですが、最終的に私は代表取締役社長です。かつNTTスポーツコミュニティ、大宮アルディージャというのは、実はNTT東日本の連結決算会社にもなっています。そういうところも踏まえた上で結果を見て、責任の取り方、どういう責任の取り方なのかを含めて内容含めて、判断はさせていただきたいと思っております。

司会：よろしいですか。それでは、質疑応答に移らせていただきたいと思います。ご質問のある方挙手にてお願いいたします。

質問者 16：GMに質問です。私 34 番で質問させてもらったんですが、来季に向けてとありましたが今シーズンのシーズン前のお話を振り返っていただきたいと思います。現有戦力を基本にメンバー編成をしたというお話は先ほどもいただきましたけども、昨年のスタメンから東慶悟選手が抜けたのは皆さんご承知の通りです。そこでディフェンスに関しては J2 でもスタメンクラスの高橋選手、福田選手が起用されました。東選手の穴についてはそのバックアップである金久保選手も出して、新しく入ってきたのは J2 でもほとんどスタメンのない宮崎選手だけ、そういう状況でした。そこに関して GM として昨年と比べて、2 列目の選手の戦力はシーズン前どう評価されていらっしたんでしょうか。

岡本：まずオフensiveミッドフィルダーですが、昨年のオフは何名かのタイプ、東選手と同じようなタイプの選手についてはリサーチをしてオファーをした経緯はあります。残念ながらこちらの方に来ないで、他のチームに行ってしまったというのがあります。そういった中でオフensiveミッドフィルダーというポジションなんですが、やはり基本的には外国籍枠ってところを考えたときに、ノヴァコヴィッチ選手はセカンドストライカーも出来る選手ですし、東選手の穴については含まれるんじゃないかと考えております。あとサイドハーフの即戦力というところでは、まだまだ少なかったかなと思っております。今は次に出てくる選手が出てきてないというのは現状でありますので、もっともっとレベルの高い争いをしなければいけないと思っております。

司会：はい、以上ご回答でよろしいでしょうか。他にございますでしょうか。そうしましたら、一番最前列ユニフォームの方をお願いします。

質問者 17：質問は大体皆さんがやっていただいて、ただ 1 点だけ、シーズン前から気になっていたことがあって今年の最初のサポミでも GM に質問させていただいたんですけども。カルリーニョス選手が今年も一応序盤残ってしまって、去年の終盤はカルリーニョス選手、どっちかっていうと金澤選手、青木選手に取って代わられたっていう感じになってまして、それでもチームに残ってまして、例えばベルデニック監督の意向だったかどうかっていうのがまず 1 点と、あと金澤、青木選手がベルデニック監督のサッカーだともものすごい、端から見るとすごい負担がかかっているのは快進撃のときから見てて思ったことなんですけども。ただこのバックアップっていう点は出来たのかどうかっていうことで、現状、今ボランチやってんのが途中移籍してきたばかりの和田選手と、あとコンバートされた高橋 祥平選手なんですけども。そこで来季っていうのは、やっぱり通年を通したチームづくりっていう点でやっぱりどうなのかなっていうのが。はい、お願いします。

岡本：まずカルリーニョス選手の件ですが、昨年発表は 12 月という形でしたが、移籍交渉は夏過ぎから始まっておりまして、その中でベルデニック前監督が就任した際にカルリーニョス選手は出場してました。パフォーマンス自体は非常にいいもの持っていますので、交渉を始めているということで、カルリーニョス選手も戦力として考えて獲得させていただきました。それとベルデニック前監督についても話をさせてもらっていた状況の中

での決定です。

それとボランチにはタイプがあると思っています。金澤選手については守備が非常に強くて運動量がある選手。青木選手については両方出来るタイプだと思っています。私自身は監督の選択肢を増やすようなバリエーションをつけられればと思っていますが、カルリーニョスが抜けたことによって特に運動量を含めたところの選択肢が、少なくなっているのかなと感じております。「たれば」になってしまいますが、カルリーニョスが抜けたことでボランチが人数的にも少なくなっていて、怪我人が出てきてしまっている状況だと思っています。

質問者 17: カルリーニョス選手はどっちかっていうとボランチ機能っていうのは大体無くなってきたというか、なんか合わなそうな感じがすごいですけども、どうなんでしょう。やっぱりカルリーニョス選手にとってブロック組んでって感じすごいしないんですけども。そういうんでやっぱりタイプっていうのは金澤、青木選手のバックアップを当初は考えていなかったのかなというのが（聞きたいこと）ですね。上田 康太選手だとか、ベルデニック監督のサッカーを遂行する上で。

岡本: 全体の人数バランスも考えている中で、1つは守備的ボランチとしては高橋 祥平選手がタイプはちょっと違うけれども、ボランチもできる選手だということは認識してました。それと片岡選手もボランチ経験もありハンティング能力はある。それを使うか使わないかは私自身は全体の編成の中で、複数ポジション出来る選手を多く取ることが選択肢を増やすことなのかなと考えて選びました。

司会: はい、ありがとうございます。他にございますでしょうか。すみません、マイク少々お待ちください。一番前の方です。

質問者 18: 社長にちょっとお尋ねします。勝点 53 を達成できなかった場合、責任問題うんぬんは別にしまして、要はスポンサーとかあと我々を含めたサポーターとか、その辺に与える影響っていうのはどのようにお考えになっておりますか。と言いますのが、この 2、3 試合見て特に感じてるのは連敗が続いているにもかかわらず、1万 1千人とか 1万人超えがずっと続いている訳ですね。これはクラブの要は試合終わった後のスポンサーさまへの報告とか、そういう目に見えない地道な活動とか、そういうのが実を結んだ結果だと思うんですけど。逆に過去を振り返ってみると、今までその残留出来るか出来ないかで私どもも 7年 8年 9年ね、ずっと J2 から上がったときから応援してて毎年ハラハラドキドキ、逆に楽しんでた部分もあるんですけども、結果として何とか J2 に落ちないでるのが現状だと思います。今年はその勝点 53 (を目標) で 1位を突っ走って、今もうはっきり言ってぶざまな成績ですよ。なかなか結果が出てこない、悪い。その辺を勘案して勝点 53 が取れなかった場合、スポンサーとかファン・サポーターへの対策ってどのようにお考えになりますか。

鈴木: はい、ありがとうございます。今年のアルディージャの春先、結果がすごく出てい

て、例年にも増してですね。まずスポンサーの話からさせていただきますが、すべての試合でプレゼンツマッチっていうことで、普通プレゼンツマッチっていうと、例えばドコモプレゼンツマッチっていうとユニフォームにドコモが付いてるから特典でプレゼンツマッチみたいなことをやるのが多いのですが。今年は非常に、そのプレゼンツマッチだけにスポンサーが付くみたいなことがあります。それってすごく成績が春に出てたからだろうなと思います。ただこここのところすごく負けているので、スポンサーに対して当然お出迎えと帰るときに挨拶はするのですが、非常に激怒されます。当然ですよ。ただ私は社長ですのに対してはそんなに厳しいことは言いません。でも今日も出席してますけど、久保田、東山、もう少し言いますとホームタウン担当の皆さんたちについても、非常に厳しい対応で迫られてると思います。そういう意味で勝点 53 を仮に取れなかったっていう場合には、私が、直接ほとんど毎年回ってますが、私がスポンサーに対しての対応というのは、来年への約束も含めて、しっかりやらなくてはならないんだろうと思ってます。それも 1 つの私の責任だというように思っています。

サポーターさんに対しては、先ほども言いました通り、特に広島戦でのあれだけすごい応援をしていただいて、広島選手たちに対してもあれだけの応援をしていただいて、私は先ほども言いましたように日本一のサポーターだと思っています。そのサポーターに対して勝点 53 という結果を出せないとなれば、やはり何ですかね、どういう責任の取り方がいってお話だったのですが、やはりしっかり考えたものをやらなくてはならないだろう、それは最終的にはやはり来年どういうチームを作って来年どういう結果を出すんだってことに、そこをしっかりと考えた上での対応をしていかなくちゃならないだろうなと思います。ただ勝点 53 を諦めてる訳ではないので、それはしっかり出すように努力します。仮に勝点 53 が出来ない場合は、ということであれば、それは来年に続くような色々なことを考えてやっていかなければならないのだろうなと私は思っています。それでサポーターの皆さんが信用していただいて、一緒にまた戦っていただければ戦っていただきたいと思っています。

司会：よろしいでしょうか、ありがとうございます。他に、ご質問ございますでしょうか。じゃ、すみません、こちらの列から 2 番目の方をお願いします。

質問者 19：完全にサッカー素人の立場からお話させていただきます。ちょっと私自身が恥をかくかもしれませんが、先ほどから継続性、一貫性というお話とそれから個の力より組織の力ということと、それからディフェンス力の強化というお話を散々聞いてきた中で敢えて思うのは、大宮アルディージャはどうしてゴール前のエゴイストを作れないんでしょうか。要するに自分で行くっていう感じが非常に、それこそ組織であるからなのかもしれないんですけどラストパスがすごく多かったりとか、自分の印象としてはあるんですね。だからもっとそれこそ佐藤寿人とか柿谷みたいに、ガンガン行くようなのがどうして大宮には出来ないんでしょうか。組織だからこそなんかシュートまで行ってないということにはならないんでしょうか。将来的にそういった可能性ってのは無いんでしょうか。

岡本：まずシュートという点で、意識が足りないところだと思います。練習の中でも試合

が終わった後（の練習）を含めて、選手にはシュートの意識を植え付けることが必要なのかなと思っております。ですから、パスが一番じゃなくて点を取ることが、シュートが一番、ゴールを狙うことをもう一度しっかり意識をさせなければいけないと思っております。先ほどお話にありました、組織というところが弊害になっているのではないかとあるのですが、それは1人で行く判断をするというのが育成年代のときからやっていかなきゃいけないところだと思っております。大宮アルディージャとして、ストライカー、個で打開出来るストライカーというのも作っていきたいという思いはあります。組織と並行してやっていければと思っております。

司会：よろしいでしょうか。それでは終了時間まであと10分となりましたので、ご質問の方あと3つ程度にさせていただきたいと思っております。「来季について」以外の質問に関してもお受けさせていただきますので、すみません、もう既にお手を挙げていただいておりますが挙手のほうお願いします。

質問者 20：すみません、先ほどの責任のところでは社長がおっしゃってたこと、ちょっと確認をしたいんですけど。NTTスポーツコミュニティはNTT東日本の連結決算子会社だからとおっしゃった気がするんですが、それはつまり社長が辞める辞めないについては親会社の都合が反映されるよ、ということでしょうか。

鈴木：そういう意味で言ったわけではないのですが、収支上の問題をどうするかというのが成績責任以外に、収支上の問題をどうするかという問題を抱えてるという意味です。連結決算というのは役員がどうのこうのではなくて収支上の問題で連結ですので、アルディージャの収支がNTT東日本の収支にどれだけ影響与えるかというのも頭に入れた上で、判断しなくてはならないということを私は言ったつもりです。ただ私は辞める辞めないとは言及もしてませんので、先ほども言いました通り責任の取り方の中身も含めて最後は代表取締役の私が判断をさせていただきます。ただ収支責任というのは何度も言いますが連結決算ですので、それも踏まえなくてはならないということを言ったもので私の責任の取り方が必ずしもNTT東日本から左右されるということはありません。私が判断すればいい話だけです。ですからその責任の取り方を含めて、中身を含めてどうするかというのは、今年の1月のサポーターミーティングでもお話しした通りの考え方でやらせていただくつもりです。

司会：よろしいでしょうか。すみません、先ほど私3つと申し上げましたが皆さんもう少しお時間よろしければ、もう少しご質問受けさせていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。それではすみません、真ん中で手を挙げてるオレンジの方お願いします。

質問者 21：すみません、来季に向けてということで私は監督人事が大きいと思っております。なので来季監督を首にしないでください。といいますのは、やはりベルデニック監督、小倉監督は戦術観には長けますが決してモチベーターではないと思うんですね。やはり世界の名将と言われるようなモウリーニョだとかファーガソンだとかちょっと表現は大きいで

すが、そういう監督はやはりモチベーションの持たせ方っていうのが非常に重要ですし、そういう勝者のメンタリティーみたいなものも植え付けてくれるような監督っていうことを切に思います。なので監督人事を重きに考えてもらいたい。そして来季監督を首にしないでください。そうすればこのような会は開かれなと思いますので、よろしく願います。

司会：ありがとうございます。質問、ご要望という形でいただいたということでよろしいでしょうか。

質問者 21：ええ、監督を首にしないでください。

司会：ありがとうございます。それでは他にございますでしょうか。すみませんでは真ん中の列の眼鏡をかけていらっしゃる方、願います。

質問者 22：すみません、来季というか経営面のお話を社長されてたんでお伺いしたいんですけども、今 17 億円という人件費の中でやられてると。多分環境が大宮アルディージャも良くなって、練習場も出来て、選手はそこに魅力を感じているってところもあると思うんですが、それはやはりオファーを出して、大宮に来てくれる要因の 1 つとしてやっぱりお金、給料ってところがあると思います。その費用が限られてるってところもあると思うんですが、同時にやっぱり収入を増やしていくことで人件費をもうちょっと上げていける可能性はあるんじゃないかと思っていて、その増収のための施策というかその辺のお考えというのはあるのかどうか、ちょっとお聞かせいただければと思っています。

司会：はい、ありがとうございます。では、社長願います。

鈴木：今年の 8 月ですかね、去年度 2012 年の各クラブの収支が J リーグから発表されたんですが、その中を見てもらえばわかるんですが。収入でいうと 33 億ぐらいで、そのうちの 65% がスポンサー収入です。収入構造でいうと、10%、3 億 3,000 万円ぐらいがチケット収入です。スポンサー収入はもう 65% に達してますので、これ以上すごく急激に伸ばすというのは難しいかな、とは思っています。かなりの額を NTT グループで出していただいています。

そうするとチケット収入をどう伸ばすかということなのですが、今年については非常にお客が入っていただいているので収入は伸びていますが、それ以上に伸ばすとなると、やはりキャパシティの問題が 1 つ。それと特にシーズンシートですが、年間 20 試合の合計額よりも 4 割引で販売しています。マリノスさんが 9 月 30 日に、来年チケットについての値上げみたいなことをリリースされていましたが、アルディージャはだいたい年間シートは 4 割引の 6 割、6 掛けで売っています。お隣のレッズさんは、割引はほとんどなしでやっています。そういうところも含めて考えていかなきゃだめなんだろうと思っています。

ちなみに隣のレッズさんは、入場料収入は年間 20 億ぐらいです。うちは 3 億 3,000 万ぐらいです。そこを改善するというのが、トータル的に選手人件費のそこ

ろにつながると思っています。ちなみにレッズさんの選手補強費は約 19 億ぐらいです。だいたいチケット収入と選手補強費が、レッズさんの場合は対等になっています。うちは 3 億 4,000 万ぐらいですかね、入場料収入。でも選手補強費は 17 億ぐらい。

ただ 2012 年度の 17 億というのは、実は収支的には移籍金があつて。ラファエルとキム・ヨンゴンが途中で出ていきました。移籍金がだいたい 3 億ぐらいありますので、その 3 億分を簡単に言いますと、今の外国籍選手、ノヴァコヴィッチとズラタンに使ったと。したがって 17 億ぐらいになったと。ただ今年は移籍選手はいません。選手人件費ベースでいうと去年よりは少し落ちると思います。やっぱりスタジアム、チケット収入のところを、どう増やすかだと思います。

司会：今後についての収入のご質問でした。よろしいでしょうか。はい。それではご質問、他にございますでしょうか。すみません、じゃ、いちばん後ろの席の黒いシャツを着ていらっしゃる方、お願いします。

質問者 23：以前のホーム戦のときに試合終了後、選手がゴール裏に挨拶に来た際に、選手がサポーターに向けて文句を言った声が確実に聞こえました。試合に負けて、選手はサポーターに文句を言ってよろしいのでしょうか。時間とお金をかけて応援に来ているサポーターを、どのように思われているのでしょうか。また、このようなことがあったのを、フロントの方は把握しているのですか。

岡本 GM：その件については、たいへん申し訳なく思っております。事実確認をしまして、選手にも注意をしたところでもあります。やはりチームとしては、それは絶対あつてはならないことだと思っておりますので、そういったところは徹底していければと思っております。やはりサポーターの方々、これだけ苦しい中でも熱いご声援をいただいておりますので、それに報いるということが 1 つの選手としての役目だと思っております。

司会：よろしいでしょうか。

他にございますでしょうか。それでは、そちらの左側のグレーのシャツの。

質問者 24：すみません。ちょっとこれは今言われた方に対しても、ちょっと関係する質問、質問というのは要望です。選手は試合終了後、ゴール裏に来ます。もちろん勝つてるときも、負けてるときもあります。やっぱりそのときに、特に FC 東京戦。負けてしまったのもありますが、やはり確かにゴール裏、罵声もけっこうありました。基本的に選手に罵声を浴びせるのは、僕はちょっといかがなものかと思っていたので。やはりこの要望書にも書いていましたが、選手以外、スタッフ、コーチ、そういう方もできればゴール裏に選手と一緒に来てもらいたい。

特に FC 東京戦で、江角選手は致命的なミスを犯しました。江角選手だけに、その責任を持たせるのは酷だと思います。コーチたちも、やはりそういう責任をかぶってもらいたい。また勝ったときには、コーチたちも一緒に喜んでもらいたい。それがやっぱり大宮共闘という風に言われている、選手もサポーターも一緒に戦っているんだということを表わして

いるんじゃないかと思います。これは質問じゃなくて要望なので、できる限りでよろしく
お願いします。以上です。

司会：ありがとうございます。岡本 GM お願いします。

岡本：先ほど話がありました江角選手のところですが、監督もその責任を非常に感じてお
ります。スタッフは、本当に1試合1試合、勝つというところで全力を尽くしてやらさせ
ていただいています。皆さんと一緒に協力出来ることがあるかというところで、検討させ
ていただければと思っております。

司会：はい、ありがとうございます。皆さま、まだお手を挙げていただける方がいらっし
ゃいまして、時間のほうが一応定刻9時を回ってはおります。まだ皆さま、お時間よろし
ければ、もう少しご質問のほうを賜りたいと思いますが、よろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。それでは引き続きご質問のある方、挙手のほうをお願いい
たします。

質問者 25：すみません、ありがとうございます。ちょっと質問が被ってしまったら申し訳
ないんですけども、社長と岡本 GM、まずサポーターのことをどのようにお考えか、教えて
いただけますか。この前の FC 東京戦に負けたあと、結構いつも帰ってるサポーターの方た
ちが、帰らずに座り込みしてました。そのときにみんな他の方たちは、「社長、出てこい。
社長、説明しろ」という風に、けっこう言われてた方が多かったですね。で、やっぱり
私も含めてクラブを代表する方に、今の現状とかをお詫び、一言でいいから、「本当に今日
はすみませんでした」という風に言葉をいただきましたかっただけです。だけど出てこない
ということは、「おまえら、勝手にやってくれれば」みたいな感じで、やっぱりとられちゃうわけ
ですよ。

あとはこの中の 42 番ですかね。42 番に書いてあるように、他のクラブ、やはり試合終了
後、サポーターの方たちに「ありがとうございました」と、監督とか社長、ゼネラルマネ
ジャーとか、特に僕が（知ってる）けっこう出てきてるクラブというのが水戸なんですか
ね。他クラブのことを言って申し訳ないんですけど、水戸の社長はトラメガ持って試合前
とか試合後とか、「今日、本当にいっぱい来ていただいてありがとうございます。選手、頑
張りますんで、力の限り応援してください」。で、試合終了後に負けたときは「今日ほん
とに来ていただいて、こんな試合、ぶざまな試合、見せてしまって申し訳ない。次からは二
度とないように選手含めて、監督含めて指導していくんで、また次からもスタジアムに
来て私たちを一生懸命応援してください。サポーターの力が私たちの力にもなるんで」とい
うことを言っているんですね。

なので、ほんとに今の現状も踏まえてサポーターのことを、まずどういう風に考えている
のか。本心を知りたいのでお願いします。以上です。

司会：ありがとうございます。サポーターの皆さんについて、どう考えているか。社長、
お願いします。

鈴木：まずFC東京戦のことについてさっきお話しいただきました。それも含めてサポーターさんをどう思っているか、というお話をさせていただきたいと思います。

まずFC東京戦ですが、申し訳ありませんでした。出ていけなかったというのは、すごく反省しています。ただ岡本については選手と一緒に、今移動はルール上、強化スタッフが必ず大型バスに乗るということになっています。その責任を今岡本GMが務めています。古矢強化部長もいるんですが、強化部長と交互にやっていて、あの時は岡本GMが大型バスに乗って帰るということになってました。皆さんが残っていることは分かっていたのですが、私とGMと事業部とも話をして岡本が定刻に帰りました。私は残られていることも分かりましたし、うちのスタッフが行ってることも分かっている、久保田取締役が行くことも知っていました。

私は何で行けなかったか、これは言い訳になってしまったら申し訳ないのですが、ホームゲームの責任者で、私は実行委員となっています。FC東京戦もマッチコミッショナーがずっと残っており、その対応というのは、実行委員が務めるルールとなっています。実は広島戦を見た方は分かったと思うのですが、私はマッチコミッショナーに「早く降りてください」と大きい声を出しました。そういう責任を私は負っているの、実はFC東京戦も行く必要は分かってたのですが、マッチコミッショナーが残っていたということもあって、私はゴール裏には行けませんでした。ただ今後はそういうことが、もし仮にあったとしたらマッチコミッショナーに了解をいただいた上で、行くようにはしたいと思います。

ではサポーターをどう思ってるんだというのは、何度も繰り返しになりますが、今年の広島戦の話もそうですが、3年前に東日本大震災があったときも、チームだけではなく、色々な活動に対して積極的に皆さん、やっていたというこも含めて、私は最高のサポーターだって思ってます。日本一のサポーターだと思っています。

でも、申し訳ありません、挨拶に行っていない私は、今後そういうことが無いように、お出迎えはしていますが、ただゲートでお見送り出来ないのは、「ありがとうございました」ってゲートで言えないのは、マッチコミッショナーもいたり、スポンサーもいるので、そっちを先に送るような形にしているので、帰るときにお見送りは出来ません。

ただお出迎えだけは、毎試合やろうということでやっています。それだけは心掛けますが、先ほどの質問者がおっしゃられた通り、勝っても負けてもゴール裏に行ってしまうことは、今までやりきれてない、やっていないので、今の意見を真摯に受け止めて今後やっていくようにしたいと思います。

司会：よろしいでしょうか。ありがとうございます。続きましてご質問のある方？では、すみません。後ろのスーツの方、お願いします。

質問者 26：すみません。今シーズンの負けてる部分のご指摘のところ、社長の方から「一体感が欠けている」とか。あと岡本GMの方から、「選手の方のモチベーションが」というお話があったんですけども、このような事例を踏まえて、今後選手のメンタルケアとかいう部分に関しては、どのようにお考えなのかを教えていただきたいんですけども。

司会：選手のメンタルケアについて、ということで、岡本 GM、お願いします。

岡本：まず選手のモチベーションというのは、選手は試合に勝つために全力でやらなければいけないというところは、大前提にあると思います。日頃より練習に集中させる環境を作ることが大事ではないかと思っています。コーチの存在も大きく、やはりみんな過酷に練習する選手に対して声をかけて働きかけをする。そういうチーム全体としてしっかり士気を高めることを作っていくことが大事ではないかと考えています。

司会：よろしいでしょうか。では、他にございますでしょうか。すみません。では真ん中の列のチェックのシャツの方、お願いします。

質問者 27：最近試合が負けることが多いのは、さっきの方もおっしゃっていましたが、選手のメンタルということで私も実は試合の翌日、練習を家から自転車で見に行きます。もちろん勝ってるときも行ってましたが、最近岡本 GM や社長さんが今日の前半でおっしゃったように「自信をなくしていた」という言葉が聞かれました。

ただ実際に行ってみると、これは私がちょっと古い人間で、皆さんもこれは同意を得られるかどうかわかりませんが、非常に選手は明るくやっています。ただ一面から言うと、言葉は悪いかもかもしれませんが、大局的な言葉を言っちゃうと悲壮感が足りないような感じもします。真夏の、私も夏休み、毎日行きましたけども、これは私はフィジカルの専門家でもないですし、プロスポーツに携わった経験もないんですが、プロの練習って、J リーグの練習って、これで終わっちゃうのかっていうのが最初に見たときの感想でした。ただそれが多いか、少ないかというのは、もちろんそのプロの方がメニューを組んでやっていらっしゃるのでも私は異論はありませんが、感想としてはそうでした。

前に戻りますが、試合翌日の選手の屈託のない笑顔も嬉しいんだけど、先日 FC 東京戦の次の日に見に行ったときに、離れた女性の方が「私は大阪にいて、ガンバの選手はもっとすごい悲壮感だったよ」という言葉をチラッと聞いたんですね。ただ、それが対比してうちのチームカラーとガンバとか、他のチームは、私は興味が無いので行かないので、それがいいか、悪いかは別なんですけど、ちょっと少し明るいのと。まあ、私の古い考えからすると、昨日の反省は無いのかなというの、ちょっと違和感がある。

そのへんを岡本 GM に聞きたいんですが、当チームの雰囲気というものは普通という言い方はおかしいんですが、プロのサッカーチームとしてのプロフェッショナルという面では、どうなんでしょう、ということを知りたいです。

岡本：試合の次の日、試合の終わった後というところでは、選手1人ひとりが強い気持ちを持って反省という部分はしていると思いますが、その次の日に切替えというところで、逆に切り替え過ぎているというところが、もしかしたら見受けられるのかもしれないと思います。危機感というところは、日頃の行動だったり、そういうところだと思いますし。ただ去年も、相当苦しい時期がありました。そういった中で負けてしょんぼりしているんじゃないで、誰かがリーダーになってチームを引っ張って、盛り上げていくということも必要だと思います。今回勝ってない中で、選手同士で話し合い等もしております。もっと

もっと表現していかなくちゃいけないのかなというのは私も感じているところなので、そういうところについてはもっと積極的に表現出来るように働きかけをしたいと思っています。

鈴木：ちょっと私も。チームの選手の話は、今岡本が答えた通りなんですが、実は私、社長の立場で心がけているところがあって、負け続けると、スタッフも暗くなります。でも暗くなるんですが、うちは株式会社です。株式会社の、私はトップの社長です。社長が暗くなると職場が暗くなるんです。だから「負けても笑顔でいようね、大きな声でいようね」ということは、クラブでも心がけています。

ただ、やはりこれも TPO があって、ヘラヘラ笑っていると「そんなに成績が悪いのに何で」ということは言われます。でも社内、あの新しいクラブハウスではみんな、負けているけど、つらいけど、みんな明るい声で笑顔で元気出してやっていこうということにしています。当然私もそういう風にしないと、みんなが暗くなります。やっぱり、毎週毎週結果が出るスポーツ、会社だけに、やはりそこは私はわざとという言い方はおかしいけれど、心掛けています。

それと選手がどう思うというのは、ちょっと違う観点なんですけど、そこもやっぱり会社運営上、経営上はやるべきなんだろうなと私は思ってやっています。

司会：他にございますでしょうか。それでは前から 3 列目、中央列の方、お願いします。

質問者 28：こちら見てしゃべりたいと思うんですけど、皆さん、お集まりいただいてありがとうございます。そしてお疲れのところ、ちょっと長くなるかもしれませんが、話しますが、このチームは以前にヨルン選手が事件に巻き込まれて、とても不幸なことになって絶望の底まで、私たちは成績面も含めて落とされた経験があるんですね。その危機を思えば、こんなこと大したことないんです。ハード面も整って、そして一時期首位にも立って、夢のような世界に我々がいて、ただ現実に戻されただけなんです。ラインコントロールとか、言われるだけなんです。ネタになってる、笑いものになってるんです。いいんです、それで。過去のことはもういいんです。それは。もう起こってしまったことなんで。未来のために何をするか、何を話すかというのがとても大事なことで、ビジョンを共有するのが今日は大事なはずだったと思うんですけども。グダグダグダグダ、別れた女に何か未練タラタラみたいだね。男の悪いところなんです、それは。しょうがない。日本人の男の悪いところなのかもしれません。マザコンが多いって言われますしね。そういうところがあるかもしれません。だからしょうがないんです、それもしょうがないのかもしれない。

けれども、だからこそ未来に向かって、こうやって話していこうと思うんですけど。未来に向かっていいところが何かあるかっていうことを、ちょっと今日この場で、この方々を見て判断させていただきたいんですけども。僕は 2007 年ぐらいの埼玉の公開授業で、浦和さんと西武さんと大宮さんが、トップの方が来てお話をするという機会があったんです。2007 年じゃなかったかもしれませんが、2007 年だと思うんですけど。

そのときに言われたことは、大宮は、ハード面をまずは充実させるんだ。いろいろなお金を切り詰めてでも、ハード面を充実させるんだ。その中でいい選手を引っ張ってくるんだ。一本釣りするんだ。それでペドロ・ジュニオールを連れてきたよって。何か新潟戦のいい

プレーを見せられて、ふーんって僕は終わってしまったんですけれども。確かにハード面も充実した。いい選手も連れて来てる。去年なんか全部当たってるわけですよ、外国人が。

そんなの出来ますか、あなたたちに。出来ないんですよ、そんなことは。Jリーグのフロントだってすごいと思います、大宮は。だから岡本 GM の目は確かなんですよ。ただですよ、岡本 GM は僕個人から言わせれば、悪いかなと思うところは、現場介入しちゃうところなんです。そんなもの、世界のサッカーチームでも聞きません。何か GM みたいな、テクニカルダイレクターとか、そういう人と監督がケンカして、監督が出ていく。いや、それはオーナーとケンカして出ていくということはあるんですけども、そんな越権行為はしません、海外のサッカーでは。これからもそれをする、貫き通すというスタイルであればもっと勉強してください。成功体験も、それは過去のものであると。そう僕は岡本 GM に言いたいんです。左サイドバックも、大塚コーチが去年練習で務めたといいます。つまり左サイドバックが弱いということは、最初から分かったことなんですね。それで左サイドバックが村上選手が怪我してしまうと、どうしても穴になってしまうと。下平選手も疲れてくると。

未来に向かってビジョンを共有したいから話してるんです。それでエゴイストな選手が足りないと言って、金久保選手は最初はずいぶんエゴイストな選手だったんです。けど、いつの間にかゴール前に近づくにつれて、新潟のチームを見てたらわかると思うんです。新潟のチームもそうだったんですけど、ゴール前に近づくにつれて、攻撃に勢いがなくなるとい時期があったんですね、新潟も。そういう病気にかかっていたんですね。金久保選手もそういう病気にかかったんでしょう。ゴール前に近づくにつれて何か勢いがなくなって、蹴るボールも勢いがなくなって、簡単にキャッチされて終わりとか、そういうのがあったんですね。だからエゴイストな選手が、プレッシャーに負けてつぶれてるというのが現状だと思うんです。だからエゴイストな選手を採ってないわけじゃないんです。ただプレッシャーにどう守るか。この事件についてもそうです。選手をどう守るのか。これからもどう守っていくのかということ、ちょっと最後には付け加えて終わりにしたいんです。

司会：あの質問を、質問としてはいかがでしょうか。

質問者 28：社長の笑顔見て、社長のことを言いたくなっちゃって、すみません。社長は、2007年の埼玉の講座のときの社長は、何かフワッとした感じの社長だったんですね、僕が一言でまとめると。けど、今日はどうですか。どっしりしてらっしゃるでしょう。すごい存在感があるんですよ、社長が。で、チームを俯瞰して上から見てくれてるんです。だから社長にお礼を言いたいんです。ありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

司会：はい、ありがとうございます。

鈴木：ありがとうございます、私から。ヨルンの事件から見れば、今大事なのは、将来のビジョンに向けてみんなでまとまって頑張ろうじゃないか、っていうお話だと思います。全くいい意見で、大事なのは私も含めて、クラブのスタッフ含めて、監督含めて、何を考

えるかっていうことだと思います。今の結果は、間違いなく結果として受け止めなくちゃならないんですが、来年以降も含めて。当然今年7試合、諦めたとかそういうことじゃないですよ。何をやるかということだとは思っています。

そういう意味でいうと、今やらなくちゃならないっていうのは当然チームもそうですが、安定して大宮でゲームが開催出来るように、例えばスタジアムの問題だとか、そういうことはやはり心掛けてやっていかななくちゃならないんだろうなと。クラブハウスは出来ました。でも本当にACL行って、もう少し言うと15年からファーストステージ、セカンドステージ（2シーズン制）と。これはいろいろ事情があって、そうせざるを得ないということでJリーグ、すべての人たち、社長さんたちがやるということを決めた話ですけど。仮にファーストステージ、セカンドステージでチャンピオンシップまで行ったときに、「本当にそれ、NACK5スタジアム大宮で、1万3,000人のところでやるの?」。私は「やる」ということで、言っています。

でもそれで本当に収益が上がるの?ということも片方にあります。私たちが仮に今後ACLに行ったときも、本当にACLのベスト4、準決勝、それを本当にNACK5でやり続けるの?チャンピオンシップの話は、私は浦和レッズさんとするんですが、ACLは別にして「鈴木さん、チャンピオンシップがそうなったら、埼玉スタジアム使ってよ」って言うんですよ、6万人入るからって。でも、私は「使いません」と言ってます。やると言ったら、NACK5で1万3,000人でもやります、と。

でも、それは本当にアルディージャのためにいいのか。将来ずっと50年、100年いくために、本当に1万3,000人だけのスタジアムでいいのかって。やっぱり、そこは改善しなくちゃならないだろうって、来年以降やっぱりそれはやるということ、色々なところに働きかけはしていますし、来シーズンのスタートのときにはまたお話は差し上げますけれど、そういうところに向けて将来ビジョン、アルディージャビジョン2020というのを定めて今年3年目、来年4年目になります。といったときに、そういうスタジアムの問題なんかも含めて、本当にマイルストーンでどんなことをどうやってくかというのを、やっぱり4年目のときには新たに出していくんだろうなと思って、検討もしています。

皆さんに喜んでいただくのは優勝だと思います。私も優勝したいです。でも優勝も大事ですが、将来50年、100年後を見渡したときに、どういうクラブになっているのか。そういう礎を私たちが作るっていうのが、やっぱり私たちに今任された、J1にいる今だからこそ、私が社長のときにやるべき話なんだろうな、と実は思っています。そのためにも今日お集まりいただいたファン・サポーターの皆さん、また広島戦の話になりますけど、あれだけすごいパワーを持ってホームチーム、アウェイチームに関わらずリスペクトしてくれる。そういうサポーターを私は背に感じて、一緒に感じていますので、ぜひ一緒にまた来年以降というか、来年以降じゃないですね、明日以降また頑張ってもらいたいというのが私の思いです。今年で終わるっていう訳じゃないので、アルディージャは。そういうことで私は、実は考えています。申し訳ありません、ちょっと熱くなりましたけれど。ちなみに2007年のときは、私は社長ではなかったのですが。(笑)

司会：貴重な熱いご意見、どうもありがとうございました。いかがでしょうか。時間のほうもだいぶ経ってしまってますが、皆さん、お時間、大丈夫でしょうか。よろしければま

だもう少し、ご質問の方を承らせていただきますが。

質問者 29：私、先ほど質問しようと思ったんですけど、関連質問が多かったので、内容はちょっと違うんですけど。うちのサポーターの構成メンバーというのは、社長、ご存じですか。若い人が多いか、ファミリーが多いか、シルバーが多いか。その点、どうですか。

鈴木：ファミリーが多いと認識しています。構造的というか、年齢構成でいくと。

質問者 29：他のチームとは全然違いますよね、サポーター構成ね。

鈴木：はい。

質問者 29：それに対して、どういう対応をしてますか。

鈴木：他のチームよりも年齢構成が高く、ファミリーが多いということなので、例えば席を確保するとか、しないとか、含めてあるのですが、そういうのはやっぱりルールはルールだから、それはスタジアムのルールと、アルディージャのルールとしてしっかり決めてやりなさい、それはもうセキュリティ上の問題でやりなさいと。

ただ1人ひとり個人的事情があるので、例えば前回まではよかったのに今回はだめみたいなことがあり得る場合があるので、そういうところはやっぱりお客さんをしっかり信用してやってくださいよと。特にもう少し言うと、こんな言い方をしては申し訳ないですが、私も年だから言うのですが、例えば私が孫を連れて来るわけです。おじいちゃんが孫を連れてきたときに、孫はゆっくり来るからここは空かしておいてくれて言ったときに、常にそういう方はいる訳ですから、そういう人たちには事情を聞いてしっかり対応してくれよ、という話はしています。

そんな点でのクレームが、メッセージボックス等では結構入ってきます。前回出来たのに、今回出来なかったとか。この間もFC東京戦であったのですが、3歳の孫かな、連れてきたのですが、アニモシールを付けたいんだけど（イベント広場に）行けなかった。前回までは出来たのに、何でそういう優しい対応をしてくれないんですか、ということ言われているんです。やっぱりそういうクレームに対しては、うちはやはり孫を連れてくる人たちは、孫はどっちかという、試合よりもそっちを楽しみに来てるので、それに適切に1つひとつ対応できるようにマニュアルなんかも含めて見直ししなさい、した方がいいよ、という話はしています。

司会：よろしいでしょうか。それでは時間もだいぶオーバーしておりますので、次で最後の質問とさせていただきたいのですが。途中、挙げていただいていた、一番前の方、お願いします。

質問者 30：手も挙げてないですみません。第一のテーマに、ちょっと被ってしまう部分があるんですけども。監督交代を何故したのかという一番大きな理由が、やっぱり一体感

が失われたということで繰り返し説明していただいて。どういう理由でというのは十分よく認識出来たんですけども、具体的に言えないという部分も含めてですね。ただ、結果として今結果が出てない部分がありますので。監督交代してからも、結果が好転してない部分もありますので。本当にその一体感というものが、第一に優先順位を置いた決断が正しかったのか、それが優先順位に置くべきだったのかどうか、ということも含めてちょっと振り返って考え、また総括していただければいいかなと思います。また一時的にとはいえ、1位という結果も得られたことですし、今まで見られなかった風景も見られた部分もありますので、監督交代したからもうすべてゼロにという訳ではなく、そのいい部分も含めて今後で反映されていったらいいのではないかな。その経験も、いい経験も、悪い経験も両方ありましたけれども、今後で繋がって。だからその責任どころということ、すなわちそうではなくて、どうされるのかということを考えていただければいいんじゃないかなと思いますが、いかがでしょうか。

司会：それでは岡本 GM、社長、お願いします。

鈴木：すみません、ありがとうございます。先ほどの質問とちょっと似ているところもあるので、お話しさせていただきます。

先ほど1番目のときですかね。ベルデニック前監督の理由だけだったのか、というお話がありました。そのときに100%ベルデニック前監督だけではないよ、というお話をさせていただいたと思います。たぶん、どう言うんですかね、原因はいろいろありました、事象は。ベルデニック前監督と私は、1回話はしました。でも結果、解任というか、監督を代えることになりました。ひょっとしたら私にも相当な責任があったかもしれないですね。監督と話しする、もう少し言うと GM、強化部長自らが、そして私が選手と話しするみたいなことも、足りなかったんじゃないかというような反省面もあります。果たして、でもそこまでやればいいのかどうかという疑問のところもあるのです。

でもやはりそういうところも含めて、100%ベルデニック前監督だけが監督交代するための要因じゃなかったということで理解していただきたいと。そういう意味で、今質問された方の、今回のことを踏まえて次回に活かしてもらいたいというものについては、こういう見解をしています。もう少し言うと前の方は、監督を辞めさせないでくれっていうお話もありましたけど。そういうことも踏まえて、今後そうならないように活かしていきたいと思えます。

司会：岡本 GM、よろしいですか。

岡本：社長がお話ししたとおり、この経験というところで成績が上の順位の中でこういうことが起きてしまった。私としては、チームが向上するためには必要だと判断しましたが、その過程を含めて、もっともっと出来ることがあったと思っておりますし、そういったところは今後で活かされたらと思います。

司会：よろしいでしょうか。それでは…。

質問者 31：最後にちょっとつまらないことですけど。ホームページなんですけど、ちょっと試合とは関係ないのですが、負けたときに、モチベーションを下げるような画像が貼ってるんですよ。それは直す、直さないとか関係ないですけど、そういうのはちょっと考えてもらってください。うち帰って見ると、がっかりしちゃいますので、お願いします。

鈴木：はい、わかりました。それはすぐに改めます。

司会：それでは、時間のほうもオーバーしてしましまして申し訳ありませんでしたが、以上をもちまして大宮アルディージャ サポートーズミーティングを終了とさせていただきます。浦和戦の前日、そして平日のお忙しい中、ご来場いただきまして、誠にありがとうございました。

※今回の議事録では、プライバシー等を保護するためにご質問者のお名前は伏せさせていただきます。